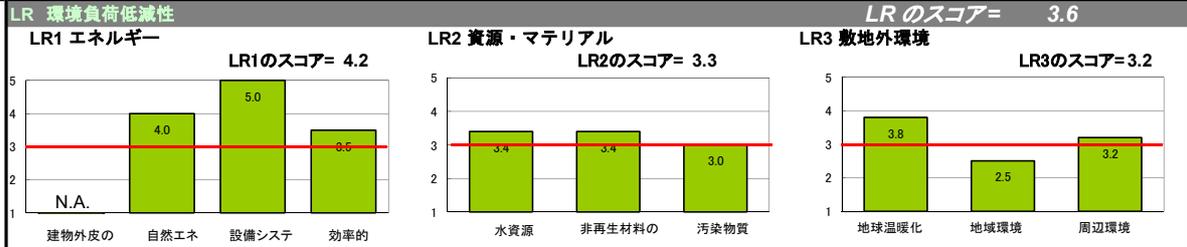
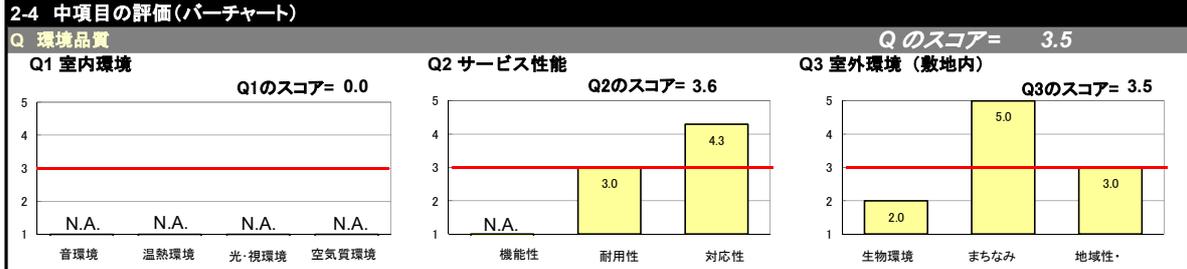
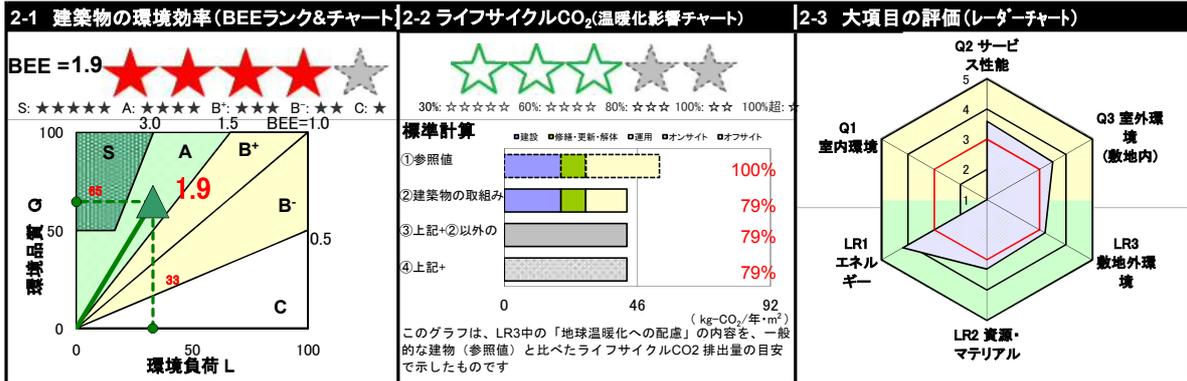


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	トヨタ自動車(株)新大口部品センター		階数	地上2階
建設地	愛知県丹羽郡大口町萩島二丁目9番		構造	S造
用途地域	市街化調整区域 地域指定なし		平均居住人員	700 人
気候区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月	予定	評価の実施日	2019年6月1日
敷地面積	96,786 m ²		作成者	陳遜
建築面積	50,973 m ²		確認日	2019年6月1日
延床面積	97,570 m ²		確認者	陳遜



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">32.1 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版					
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部			建物全体・共用部/居住・宿泊部分		全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ソーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画	独自								
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									
2 免震・制震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									
2.4 信頼性									
1 空調・換気設備									
2 給排水・衛生設備									
3 電気設備	②								
4 機械・配管支持方法									
5 通信・情報設備									

給水・雑排水・汚水排水管全てCを満たす

3 対応性・更新性				4.3	0.48			-	4.3
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			全てのフロアでH=3.9m以上を確保	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			全てのフロアで壁長さ比率は0.1以下	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.3	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②	構造部材を痛めることなく修繕可能	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22			-	
			設備用/バルコニースペースはバックアップスペースを兼用し、を建物3周に確保					-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	3.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	建物形状や高さは周辺建物へ配慮し、北側住宅地に対して良好な植栽計画を行い、全面道路からの眺望を検証検討した。調整池の一部を地域開放することで、良好な景観形成に寄与する。	5.0	0.40			-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	3.6
LR1 エネルギー					0.40			-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制								-	
2 自然エネルギー利用			ハイライトによる自然採光の採用と開閉窓による自然換気の採用	4.0	0.28			-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.56	5.0	0.43			-	5.0
4 効率的運用				3.5	0.29			-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00			-	
4.1 モニタリング			用途別にエネルギー量を把握している	4.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価								-	
4.1 モニタリング								-	
4.2 運用管理体制								-	
LR2 資源・マテリアル					0.30			-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水器具の採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			-	3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	【内装材】吸音板・【床材】ビニル床シート・【壁材】磁器質タイル	5.0	0.21			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30			-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	換算スコア=3.8	3.8	0.33			-	3.8
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制			駐車場の確保、大型車滞留スペースの確保、交通動線の整理	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリスト項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない。	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタ自動車(株)新大口部品センター 倉庫棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:32.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫棟はトヨタ補給部品の拠点を効率的に集約し、機能性、快適性、安全性、を最大限に実現した国内最大級の先進的な物流センターとして計画した。 ・大規模建築のため、周囲の建物の形状や位置に配慮した高さ設定や色彩計画とした。 ・周辺の景観に配慮した植栽計画を行った。 ・大量の大型車が出入りするため、敷地内の交通動線の整理を行った。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の設置や更新が容易に行えるように、建物2階外周部に設備バルコニーを設けた。 ・倉庫内各所に休憩ハウスを設けた。 ・災害時でも受水槽が使える計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な敷地内において、倉庫棟外周部分に歩道と共に芝生を廻すことで、敷地内に良好な歩道環境を形成した。 ・街並み、景観に配慮した立面計画とした。 ・調整池の一部を外部開放する計画とした。 ・北側に緑地を重点的に配置することで、隣地住民への環境配慮を行った。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイサイドライトの自然採光を積極的に採用した。 ・雨センサーと風速計を自動開閉窓と連動させることで、自然換気の効率を高めた。 ・設備機器においても省エネ機器を採用。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・環境性能に配慮した外装材や屋根材を採用する。 ・建築材料は規制対象外もしくは告示対象外を使用する。 ・節水型の器具を採用する。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・北側住宅地への騒音と車両照明照射の配慮により、倉庫棟入口に下屋を計画した。 ・敷地外周部に植栽を多く計画することで、周辺環境へ配慮した。 ・渋滞緩和のため、駐車場のスペース確保及び大型車の滞留場所を計画した。 ・光害抑制のため十分な検討を行い、広告物照明を行っていない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な廃棄計画とし、リサイクルにも積極的に取り組むため、附属棟のエコステーションを建設する。